

残暑が続いておりますが、皆様には大学院入試に関わる業務等でお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。さて、今年5月から開始しましたユーザー実験も、PF、PF-ARともに6月30日をもって無事終了することができました。約4ヶ月半ぶりのユーザー実験再開でしたので、突発的なトラブルの発生が心配されましたが、御陰様で実験期間を通して安定なビームを供給することができました。PFスタッフが代表して、ユーザーの皆様のご協力に感謝致します。夏のシャットダウン中には、入射器・光源やビームライン・実験装置等の整備を十分に進め、10月から運転をスムーズに行い、共同利用実験を支障なく遂行できるように備えたいと考えております。

PF 将来計画の進捗状況

前号のPF Newsで、今年度のPF運営で特に力を入れる事項を3つ提示させて頂きました。その第1番目に「PF将来計画の確定と具体化」を挙げました。PFにとって、今年度がその将来計画の大きな節目にあたると考えているからです。PF将来計画に関しては、現在、ゆっくりですが確実に、大きな方針転換が行われようとしています。ここではPF将来計画と密接に関連する次の2つの委員会に関して、その進捗状況を述べます。

(1) PF 将来計画検討委員会

昨年度、物構研運営会議のもとにPF将来計画検討委員会が設置されました。同委員会のミッションは、PFが共同利用施設として今後果たすべき役割、PFの次期光源、施設の運営形態などについて検討を行い、物構研運営会議にその検討結果を報告することです。同委員会メンバーは、KEK外部10名、内部10名の次世代放射光科学を担う先生方で構成されています。昨年11月からほぼ月1回のペースで、計6回の委員会が開催されました。毎回、テーマを絞り2人から3人の委員によるプレゼンテーションの後、提示された資料について、全員で白熱した議論を行いました。いつも会議予定時間を大幅に超過し、委員の皆様には大きなご負担をかけてしまいましたが、率直な意見交換から始まり、十分に突っ込んだ議論が行われたと考えています。同委員会での主な議事は次のようなものでした：○PF将来計画の経緯とPFの現状、○PF-UAによる「PFおよび日本の放射光科学の将来への提言」、○PFのミッション、○将来展開するサイエンス、○そのために必要なビームライン・実験装置、○施設の運営・利用システム、○PFの次期光源の具体的検討、○ERL計画の現状と今後の進展、○その他の先端的放射光源計画。特に本委員会では、あらためて将来にわたってPFの果たすべき役割（ミッション）について、(1)先端的研究(2)共同利用(3)人材育成(4)社会貢献、という4つの観点から整理して頂きました。整理されたPFのミッションは、今後の研究

や共同利用等の活動方針を決定する上で基本となる考え方であり、大変良い議論をして頂いたと思っています。

このような同委員会での集中した議論の結果、PF将来計画に対する明快な方向性が示されたと考えています。同委員会では、議論の内容をまとめ、PF将来計画検討委員会報告書「中間まとめ」が作成されました。この「中間まとめ」は物構研運営会議に提出され、現在、同運営会議の中で審議が行われているところです。運営会議で審議中ですので、現時点ではまだ公開できる段階にはありません。同委員会では、運営会議からの意見を踏まえ、さらに議論を積み重ね、「最終まとめ」を今年度中には作り上げる予定です。その過程において、同委員会報告書の内容を公開し、ユーザーの皆様からの御意見を頂く機会もあるかと思えます。その節はどうぞ忌憚のない御意見を頂けますよう、宜しくお願い致します。

(2) KEK 研究推進会議

KEK研究推進会議では、KEKロードマップの策定を行うと共に、機構内で進行中の研究の進捗状況などについて継続的な議論を行っています。PF将来計画についても、昨年度末に時間をかけて議論して頂きました。さて今年度より研究推進会議では、山内機構長の考え方の基に、新たな議論を開始しています。

KEKでは、2013年5月にKEKロードマップ2013を策定し、2013年10月附記(<http://www.kek.jp/ja/About/OrganizationOverview/Assessment/Roadmap/roadmap2013-J.pdf>)とともに、今後KEKで取り組んでいく研究の方針としています。このロードマップの挙げられているプロジェクトを実現していくためには、予算面も含めてどのプロジェクトをどのように実施していくかについての実施計画が必要となります。そのためKEKプロジェクト実施計画(KEK Project Implementation Plan, KEK-PIP)を策定することになりました。KEK-PIPでは、ロードマップに挙げられている研究計画を絞り込んだうえで、新たな概算要求をすべきもの、既存のプロジェクトとして実施するもの、一般経費で実施するものなど、その実施方法を分類し、実施順位をつけます。策定にあたっては、研究推進会議での議論、機構執行部によるプロジェクト責任者のヒアリング、所長・施設長等と機構執行部との議論等が行われる予定です。今後の研究推進会議において、PF将来計画に関連するものとして8月31日にコンパクトERL、9月30日にPFおよびPF-ARの高性能化・高効率化についての議論が予定されています。10月以降には、放射光将来計画についても、さらに密な議論が行われることになるかと思えます。これらの議論を通じて、PF将来計画をKEK-PIPの中に、しっかりと位置付けていきたいと考えています。